

2023年度水環境文化賞を受賞して

仙台リバーズネット・梅田川 代表 楠原俊之

この度は名誉ある日本水環境学会「水環境文化賞」の受賞の榮譽にあずかり、まことに光榮の至りです。私たちの活動の場である梅田川は仙台市北西部を源流として東に流れ、仙台市北東部七北田川に合流する約15kmの小河川です。仙台リバーズネット・梅田川は市民に愛される梅田川の環境づくりを目的として2000年6月に設立し、梅田川の水環境保全活動を続けている団体です。

梅田川はかつて「仙台のどぶ川」と呼ばれ、汚濁の進んだ川でしたが、多くの仙台市民の環境活動により近年、サケの遡上がみられるようになりました。本会は梅田川の水環境保全活動はもとより都市化の進展にともなう河川の氾濫や水量の減少に危機感を持ち、水循環の健全化を進めるために雨水浸透ますや雨水貯留タンクの普及活動、小学生を対象とした環境学習に力を注いでいます。本会の活動を、以下に簡単にご紹介します。

活動1：水環境保全活動（河川清掃、水すこやかさ指標調査、生きもの調査とワークショップの開催ほか）

2000年6月から現在に至るまでの20数年間、梅田川での年3回の清掃活動を継続して実施するとともに、あわせて国土交通省の河川・水辺国勢調査に参加してきました。また、水辺のすこやかさ指標を用いて2016年8月と11月に梅田川の水源地から七北田川合流地点までの12地点での調査を実施し、2017年には梅田川の2本の支流である藤川、高野川の調査を実施し、これらの調査結果は報告書としてとりまとめました。これらの報告書は宮城県土木事務所・仙台市河川課・梅田川流域町内会等へ配布し、梅田川では中流域の水辺環境の整備ならびにサケおよびその他の魚類の遡上を阻害する堰の改善が必要であることなど、梅田川の改善に向けて新たな課題を指摘しました。さらに2018年には梅田川の上流から下流まで堰の実態調査を実施し、魚の遡上を阻害する堰・落差工などが多数あることが判明し、梅田川流域町内会の方々と話し合い、現地見学会などを実施し、宮城県・仙台市へ梅田川の自然再生へ向けた取り組みを提案しました。その結果、仙台市は梅田川の河川改修工事に合わせ、役割の終えた梅田川上流の農業取水堰を改修し、魚道を設置することになり、2022年

7月に切欠き魚道が完成しました。魚道の完成後は地域の方々と生きもの調査、自然観察会、ワークショップを行い、身近な梅田川の自然再生活動に向け活動しています。

活動2：雨水貯留浸透施設の啓発運動（天水桶作り講座開催・イベントへの出展）

都市化の進展にともなう河川の氾濫や地下水の減少の抑制を目指し、健全な水循環を図るため雨水浸透ますや雨水貯留タンクの設置促進するための活動を続けています。雨水をためて、使って楽しい暮らしを目指し、誰にでも簡単にできる天水桶（雨水貯留タンク）手作り講座を2009年から年に2回、仙台市民を対象に開催しています（写真1）。最近では宮城県内の他の都市（栗原市・塩釜市）においても開催しています。雨水をためて災害時の水の確保や地下水涵養、下水道への負荷低減などの視点から仙台市環境フォーラム、仙台市防災未来フォーラム、下水道フェア、仙台防災シンポジウムなどに参加し、雨水貯留システムを展示紹介しています。

活動3：環境学習支援活動など

2013年より仙台市内の小学校を対象に廃棄物・水環境をテーマに環境出前講座を実施しています。廃棄物のテーマでは「ゴミ本当にゴミなの……？」というゲームを通してゴミのポイ捨て防止を知ってもらう内容です（写真2）。また、水環境に関わるテーマでは「水の捜索人」と題してバーチャルウォーターを通して、子どもたちの身近な食べ物であるカレーライス1杯にどれだけの水が使われているか、牛、豚、鶏の肉の3種類のカレーライスではどれだけの水が使われているか？目には見えない水（仮想水）を捜索してもらいます。

このような授業を通じて私たちが生きるためにどれだけの水を使っているかを理解してもらうため、毎年、5~6校の小学校で出前授業を実施しており、これまで仙台市内、のべ60校近くの学校で実施してきました。

最後にこの度の水環境文化賞の受賞にあたり、ご尽力いただいた日本水環境学会東北支部の関係各位に心より感謝申し上げます。



写真1 手作り天水桶講座の様子



写真2 仙台市内の小学校での出前授業の様子